

海外調達材に関するトレーサビリティ調査（2022年度）

1 調査概要

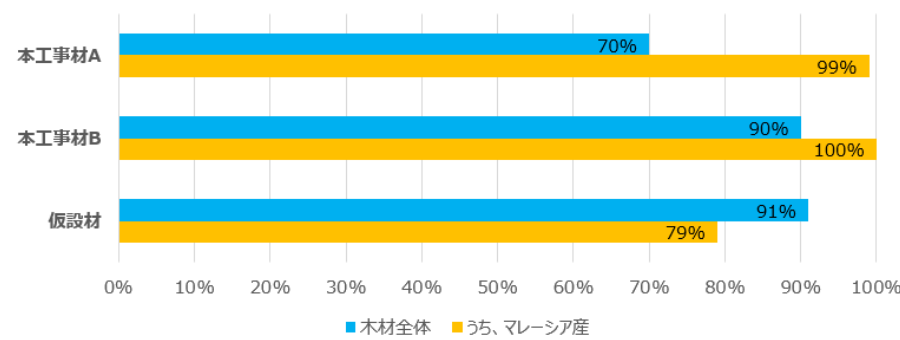
- (1) 調査対象期間 2022年9月～2022年11月
- (2) 調査対象資材 海外調達木材（本工事材、仮設材）、太陽光パネル部材
- (3) 調査方法 木工事会社、型枠施工会社、設備会社やメーカーなどに対して調査票を送付
- ・木材 商流および森林認証材使用の有無などについて調査
 - ・太陽光パネル部材 製造拠点および製造過程での新疆ウイグル自治区の関与の有無を調査
- (4) 調査実施企業 木材 55社（昨年度 41社）、太陽光パネル部材 5社（昨年度 7社）

2 アンケート結果

(1) 海外調達木材

ア トレーサビリティ（1次取引先～原産国のメーカーまで追跡可能か調査）

1次取引先～原産国のメーカーまで追跡可能か調査



- 本工事材A（木材）・・・丸太、角材、合板、端材など
- 本工事材B（木加工品）・・・木製建具、木製家具など
- 仮設材・・・型枠材

割合は「追跡可能な商流／各調査実施企業が回答した商流本数合計」により算出

イ 原産国

本工事材A

原産国	割合
インドネシア	31%
アメリカ	14%
中国	14%
マレーシア	12%
カナダ	8%
その他	21%

本工事材B

原産国	割合
中国	22%
インドネシア	15%
カナダ	13%
ニュージーランド	13%
アメリカ	11%
マレーシア	4%
その他	22%

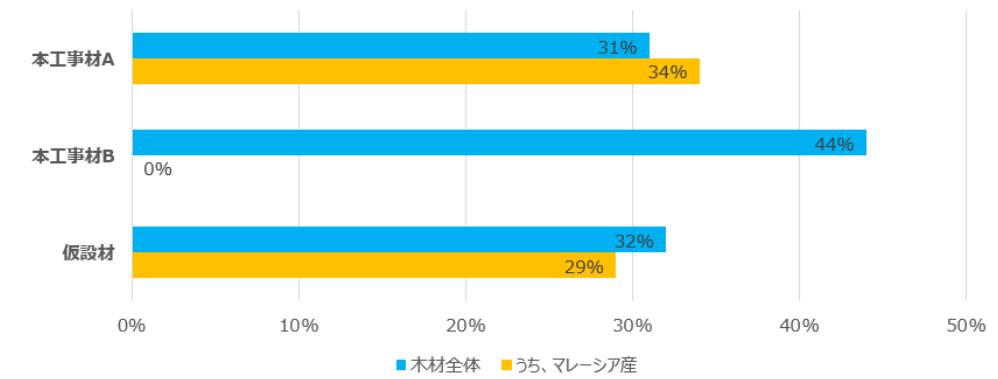
仮設材

原産国	割合
マレーシア	60%
アメリカ	13%
インドネシア	13%
カナダ	5%
その他	9%

割合は「原産国が当該国である商流／各調査実施企業が回答した商流本数合計」により算出

ウ 国際森林認証（FSC認証、PEFC認証）材[※]の使用

国際森林認証（FSC認証、PEFC認証）材の使用



割合は「森林認証材を使用している商流／各調査実施企業が回答した商流本数合計」により算出

エ 評価・課題

- ・木材全体、人権侵害・環境破壊リスクが指摘されているマレーシア産材とともに概ねトレーサビリティが確保されていることが確認できた。
- ・森林認証材の使用割合は、流通量やコストなどの面からまだまだ低い状況であることが判明した。

(2) 太陽光パネル部材

- ・各部材（ガラス、セル、パワコン、ケーブル／コネクタ、接続箱）において中国産が認められたものの、新疆ウイグル自治区の関与がないことが確認できた。
- ・サプライヤー管理を目的に「サプライヤー行動規範」を制定し、その中で児童労働や非自発的労働、人身売買、奴隷制の禁止などを定めている企業もあった。

以上

※国際森林認証材・・・環境、社会、経済の観点から、適正に管理された森林から算出した木材などに認証を付与することにより、持続可能な森林の利用と保護を図る制度のこと。世界自然保護基金（WWF）を中心に発足した森林管理協議会が管理する「FSC認証」と「ヨーロッパ11カ国の認証組織により発足したPEFC認証プログラムが管理する「PEFC認証」がある。